発行 ： 2008年1月

Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定（変額保険用） 月次運用報告書（2007年12月）

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
2007年12月における特別勘定（変額保険用）の運用状況をご報告致します。
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス　http://www.axa.co.jp/life/

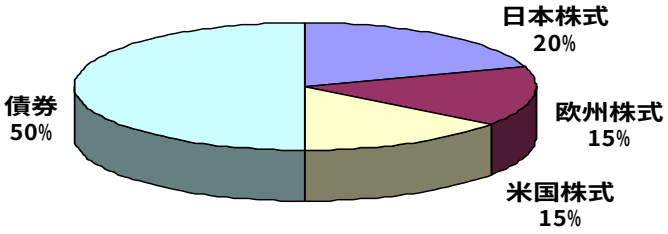
特別勘定の運用方針

- 日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。
- 基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。
- 特別勘定の運用は、各投資信託（ファンド）の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社ファンド・マネジメント部が行います。
- 特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社（運用協力会社）の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。
- 各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

（グローバルミックスの資産配分比率）



＊上記は設定当初の資産配分比率です。
＊資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

運用協力会社（ファンドの運用会社）のご紹介

■アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていますので、合計等と合致しないことがあります。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1−17−3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

運用環境について(2007年12月)

【日本株式市場】

■ 当月の日本株式市場は、日経平均が▲2.38%の15,307円78銭、TOPIXが▲3.67%の1,475.68で終了しました。月前半には米政府当局によるサブプライム救済策発表を受けて上昇し、12月7日には日経平均で高値16,107円65銭をつけましたが、その後12日(現地時間11日)に米連邦公開市場委員会(FOMC)で利下げ幅が市場の予想を下回る▲0.25%にとどまることが発表されると米国景気後退懸念が台頭し、輸出関連株や金融株中心に下落しました。また14日には日銀短観で業況判断DIが19と3四半期ぶりの低水準となったため、内需株も下落し、12月21日には14,998円01銭と15,000円割れの水準まで下落しました。この水準では値ごろ感による買戻しもあり下げ渋りましたが、結局前月末比マイナスでのクローズとなりました。

■ 需給面では、外国人投資家が11月に引き続き最大の売り手となっていたのに対して信託銀行、事業法人、投信が買い手となっています。特に信託銀行は12月第3週まで8週連続の買い越しとなっており、公的資金・国内年金が国内株式買い越しに動いていることを窺わせています。

■ 東証33業種の月間上昇率上位業種は鉱業(+4.30%)、情報通信業(+2.27%)、小売業(+1.39%)、一方下位業種は海運業(▲13.08%)、不動産業(▲12.32%)、その他金融業(▲10.79%)、銀行業(▲7.90%)、非鉄金属(▲7.15%)となりました。当月は原油価格の高騰を背景に鉱業が値上がりしたほかディフェンシブ銘柄が買われました。一方金融や不動産業は大幅下落となっています。

【米国株式市場】

■ 当月の米国株式市場の主要株価指数の月間騰落率は、S&P500種株価指数は▲0.86%、ダウ平均株価は▲0.80%、ナスダック指数は▲0.33%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

■ 月初は、米国政府の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題への対策案の発表や、シンガポール政府系ファンドがメリルリンチに対する出資や中東の投資家の米大手金融機関への出資発表から、NYダウは一時13,700米ドル台まで持ち直し、米国株式市場は上昇しました。

■ しかし、月中旬に軟調な経済指標を背景に景気減速懸念が台頭し、原油価格高騰からインフレ懸念も高まったことから、米国株式市場は調整局面を迎えました。その後、月後半に中国やシンガポールなどの政府系ファンドの米国大手金融機関への出資発表や、米国大手金融機関の決算発表による悪材料の出尽くし感から、市場は反発しました。月末は、パキスタンの政情不安、景気指標の悪化や原油価格の上昇などの悪材料から米国株式市場は軟調に推移しました。

■ 政策金利については連邦公開市場委員会(FOMC)により利下げ幅は▲0.25%(4.50%から4.25%)となりました。

【欧州株式市場】

■ 当月の主要株価指数の騰落率は、MSCI欧州株価指数は▲0.51%、FT100指数は+0.38%、仏CAC指数は▲1.00%、独DAX指数は+2.50%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

■ 当月は、欧州株式市場は月中旬に欧米の各中央銀行が金融市場の混乱化を落ち着かせるための資金供給を好感し、中旬まで堅調であったものの、その後低下し、月末にわずかに反発しました。

■ 月初、米国政府の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題への対応策の発表や、シンガポール政府系ファンドがメリルリンチに対する出資や中東の投資家の米大手金融機関への出資発表から、欧州株式市場は上昇しました。しかし、月中旬、ユーロ高がドイツ輸出の不透明感を増大させたことから見通しの悪化を招くなど、1993年1月以来の低水準に落ち込んだZEW景況感指数 (ドイツ)を受けて、ユーロは軟調に推移しました。こうした弱い経済指標が発表されたこと、またインフレ圧力の高まりから欧州中央銀行(ECB)が利下げが実施できないとの懸念が強まったことなどを受けて、欧州株式市場は下落しました。月後半は、原油価格の上昇により、石油関連銘柄が堅調であったこと、また政府系ファンドによる出資を好感した銀行銘柄が上昇したことなどから、欧州株式市場は反発しました。

■ 政策金利について欧州中央銀行(ECB)は、据え置きとしました。

【国内債券市場】

■ 当月の国内債券市場は、米国の信用力の低い個人向け住宅融資 (サブプライムローン) 問題に伴う世界的な信用収縮懸念が、一旦後退し、11月の水準から弱含み、1.5%台での推移となりました。

■ 11月末から12月月初にかけて、サブプライム関連損出を発表した米大手金融機関は、新興諸国の政府系ファンドからの出資を受ける等対策を講じたことから、当該問題からの信用収縮懸念は一旦後退しました。それに伴い、11月には1.4%水準まで強含んでいた10年国債利回りは、1.5%台まで調整する動きとなりました。米政府によるサブプライムローン借り手救済策や米連邦公開市場委員会 (FOMC) での▲0.25%の追加的利下げ、米欧中央銀行による年越えの流動性対策も、信用収縮懸念の後退を後押しする結果となりました。

■ 月央には、12月調査の日銀短観において業況判断の悪化が示唆され、日銀は景気判断を下方修正しましたが、ある程度予想されていたことから、大きな反応にはつながりませんでした。また、日銀の政策決定会合においては、前月同様、足元の不確実性の高まりや国内景況感の悪化懸念を受けて、金融政策を据え置きました。そのような状況下、年末に向けて、10年国債利回りは株式市場動向や為替市場動向に反応しつつも、1.5%台のレンジ内での推移となりました。

《参考指標》

		2007年11月末	2007年12月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1531.88 ポイント	1475.68 ポイント	-3.67%
	日経平均	15680.67 円	15307.78 円	-2.38%
	新発10年国債	1.460 %	1.500 %	0.040上昇
米国	NYダウ	13371.72 ドル	13264.82 ドル	-0.80%
	S&P500	1481.14 ポイント	1468.36 ポイント	-0.86%
	NASDAQ	2660.96 ポイント	2652.28 ポイント	-0.33%
	10年国債	3.938 %	4.0230 %	0.085上昇
欧州	FT100	6432.50 ポイント	6456.90 ポイント	0.38%
	CAC40	5670.57 ポイント	5614.08 ポイント	-1.00%
	DAX	7870.52 ポイント	8067.32 ポイント	2.50%
	独10年国債	4.126 %	4.307 %	0.181上昇
為替	米ドル/円レート	110.15 円	114.15 円	3.63%円安
	ユーロ/円レート	162.71 円	166.66 円	2.43%円安

＊各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利 (日本)、ジェネリック米国利回り10年 (米国)、ドイツ国債10年の利回り (欧州) を表示しております。
＊為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1−17−3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

特別勘定の資産内容について（2007年12月）

【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のＩＮＤＥＸ」とは、弊社が変額保険「Ｇｌｏｂａｌ Ｍｉｘ」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。

日付	INDEX
07/01/31	1.007
07/02/28	1.009
07/03/31	1.009
07/04/30	1.017
07/05/31	1.027
07/06/30	1.025
07/07/31	1.007
07/08/31	0.993
07/09/30	1.007
07/10/31	1.009
07/11/30	0.982
07/12/31	0.978

【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
-0.40%	-4.50%	-1.84%	1.30%	14.56%	-2.18%

注）設定日である２０００年８月１日を１．００としたパフォーマンスを示しています。
注）騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。
注）上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。
注）この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

【特別勘定資産の内訳】

項目	金額（千円）	構成比（%）
預貯金・コールローン	740,901	2.0
日本株式型投資信託①（アクサＲ）	3,599,047	9.6
日本株式型投資信託②（アクサＲ）	5,404,813	14.4
米国株式型投資信託（アクサＲ）	5,671,543	15.1
欧州株式型投資信託（アクサＲ）	3,728,318	9.9
日本債券型投資信託（アクサＲ）	17,894,516	47.6
その他	537,191	1.4
特別勘定合計	37,576,331	100.0

注）金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っておりません。

【保有契約高】

項目	件数（件）	金額（千円）
有期型	1,124	2,591,976
終身型	57,136	307,134,581
合計	58,260	309,726,558

注）金額の単位未満は切り捨てとしました。

【特別勘定の解説】

■ 当特別勘定は原則として、５０％を安全資産での運用にしております。
■ 積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の２５％、欧米株式で２５％の資産配分といたします。
■ リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとでの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

【今後の運用方針】

■ 特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

（アクサ生命保険株式会社　ファンド・マネジメント部）

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

日本株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ　ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：TOPIX

【運用状況】

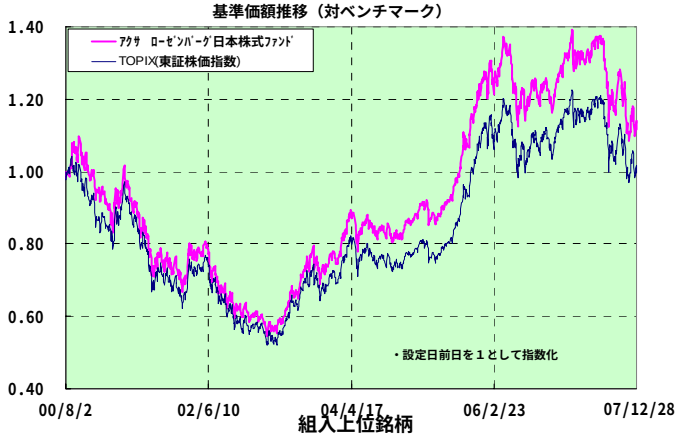
当月は、ベンチマークであるTOPIXが▲3.67%であったのに対し、当ファンドは、▲3.17%となり、+0.50%のアウトパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、下落した銀行業、不動産業をベンチマーク比で少なめに保有していたことや、上昇した金属製品を多めに保有していたことは、いずれもプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、上昇した日本電信電話(9432)、日立製作所(6501)や、新日本製鐵(5401)をベンチマーク比で多めに保有していたことはプラスへの寄与となりました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社　日本株式運用チーム）

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.2%
2	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	3.0%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.4%
4	キヤノン	電気機器	2.0%
5	日本電信電話	情報・通信業	1.8%
6	松下電器産業	電気機器	1.8%
7	任天堂	その他製品	1.7%
8	新日本製鐵	鉄鋼	1.7%
9	ソニー	電気機器	1.6%
10	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.5%
合計			21.7%
組入銘柄数			368銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

日本バリュー株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ　ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：TOPIX

【運用状況】

当月はベンチマークであるTOPIXが▲3.67%となったのに対し、当ファンドは▲3.04%となり、+0.63%のアウトパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、下落した銀行業、不動産業をベンチマーク比で少なめに保有していたことや、上昇した金属製品を多めに保有していたことは、いずれもプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、上昇した日本電信電話(9432)、松下電器産業(6752)や、エヌ・ティ・ティ・ドコモ(9437)をベンチマーク比で多めに保有していたことはプラスへの寄与となりました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社　日本株式運用チーム）

基準価額推移（対ベンチマーク）

組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	松下電器産業	電気機器	5.5%
2	日本電信電話	情報・通信業	4.5%
3	三菱商事	卸売業	3.5%
4	トヨタ自動車	輸送用機器	3.3%
5	本田技研工業	輸送用機器	3.1%
6	ジェイ　エフ　イー　ホールディングス	鉄鋼	3.1%
7	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.5%
8	富士フイルムホールディングス	化学	2.2%
9	キヤノン	電気機器	2.2%
10	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	2.2%
合計			32.1%
組入銘柄数			275銘柄

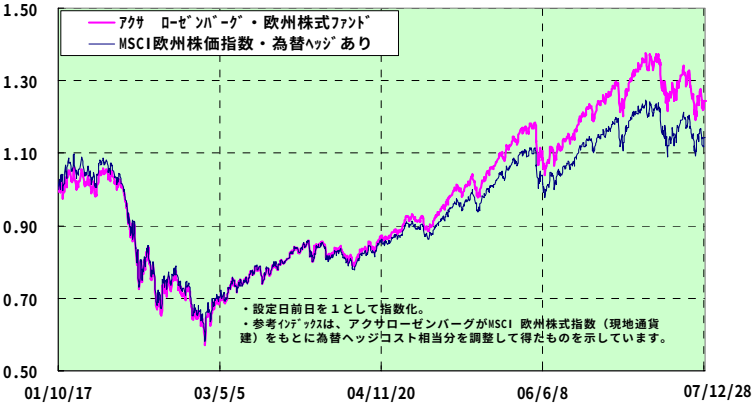
＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価して います。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

欧州株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

[運用方針]： 幅広い投資対象(欧州約3,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)<適格機関投資家私募>」に投資します。
[ベンチマーク]： MSCI欧州株式指数(為替ヘッジあり)

基準価額推移（対ベンチマーク）



【運用状況】
当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が+0.45%であったのに対し、当ファンドは+0.38%となり、▲0.07%のアンダーパフォームとなりました。
当月の欧州株式市場は、これまでに相対的にみて株価の上昇していた銘柄が引き続き上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比較して少なめに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落した自動車、金属、紙・パルプなどをベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
個別銘柄では、下落した素材のAnglo American(アングロ・アメリカン、イギリス)や保険のSwiss Life Holding(スイスライフ、スイス)をベンチマーク比で多めに保有していたことや、上昇した公益事業のSuez SA(スエズSA、フランス)を保有していなかったことはいずれもマイナスに寄与しました。

【今後の運用方針】
当ファンドの運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

組入上位銘柄

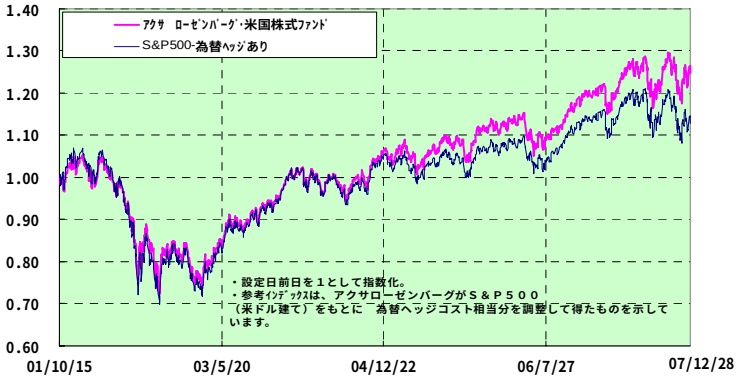
	銘柄	業種	比率
1	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.5%
2	トタル SA	エネルギー	2.0%
3	BP PLC	エネルギー	2.0%
4	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	2.0%
5	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.6%
6	ネスレ	食品・飲料・タバコ	1.5%
7	アリアンツ SE	保険	1.5%
8	サノフィ・アベンティス	医薬品・バイオテクノロジー	1.4%
9	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-B-SHS	エネルギー	1.4%
10	ENI SPA	エネルギー	1.4%
合計			17.3%
組入銘柄数			322銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

米国株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

[運用方針]： 幅広い投資対象(米国約6,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)<適格機関投資家私募>」に投資します。
[ベンチマーク]： S&P500(為替ヘッジあり)

基準価額推移（対ベンチマーク）



【運用状況】
当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が+0.09%であったのに対し、当ファンドは+1.69%となり、+1.60%アウトパフォームしました。
当月の米国株式市場は、前月に引き続き金利の上昇懸念から、債務借入の大きい企業が相対的に下落する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比べて少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、上昇した石油メジャーや石油をベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落した銀行を少なめに保有していたことはいずれもプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、下落した各種金融のSLM Corpを保有していなかったことや、上昇したエネルギーのMurphy Oil Corp(マーフィーオイル)、また素材のMonsanto Co(モンサント・カンパニー)をベンチマーク比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

【今後の運用方針】
当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	4.2%
2	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	2.6%
3	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.5%
4	シェブロン	エネルギー	2.1%
5	グーグルINC	ソフトウェア・サービス	1.7%
6	アップルINC	テクノロジー製品・機器	1.7%
7	コノコフィリップス	エネルギー	1.6%
8	AT&T	電気通信サービス	1.6%
9	IBM	テクノロジー製品・機器	1.5%
10	ヒューレット・パッカード	テクノロジー製品・機器	1.5%
合計			21.0%
組入銘柄数			296銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

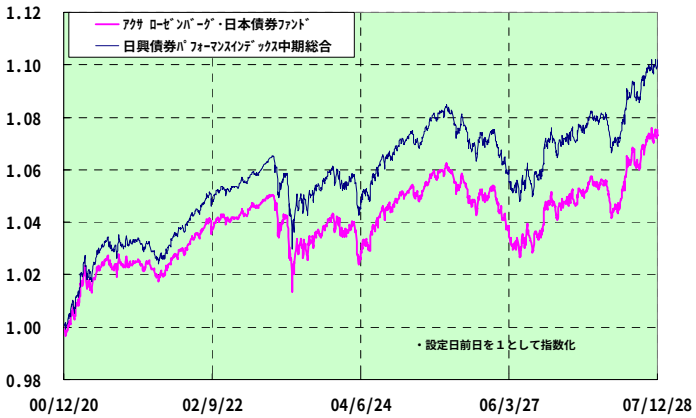
注) ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

日本債券ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。
「アクサ　ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：日興債券パフォーマンス・インデックス中期総合

基準価額推移（対ベンチマーク）



[運用状況]

当月の当ファンドの投資収益率は▲0.04%（ベンチマークは+0.30%）となりました。
景気、物価情勢は中長期的な観点では、概ね日銀の展望に沿う形で推移してきているものの、消費関連指標に力強さは見られず、世界経済の不確実性も払拭されない状況下、足元では国内景況感に陰りも見られます。従って、更なる金利低下余地は限定的であるものの、日銀による早急な金利正常化は難しく、金利が上昇する可能性もまた低いとの判断を維持しました。しかしながら、月初は債券調整局面となったことから、小幅に長期化していたデュレーションを中立水準に戻しました。これが小幅ながらパフォーマンスに対してマイナス要因となり、社債等の対国債利回り較差は概ね穏やかな推移となり、パフォーマンスへの寄与はほとんど見られなかったものの、全体では、対ベンチマークで小幅にマイナスとなりました。

[今後の運用方針]

足元の消費者物価指数はゼロ近傍となっているものの、景気、物価動向は概ね日銀の展望に沿った形で推移しており、日銀は、今後も金利の正常化を意識しながら、内外景況感を勘案した金融政策を続けて行くものと思われます。しかし、外的要因としての米サブプライムローン問題の波及等依然として不確実要素が色濃く残り、日銀は以前よりも増して、それらの点について詳細に点検を行う必要があると考えられます。12月も利上げを見送っており、米国が利下げを行うなど、依然として海外からもたらされる不確実性を強く意識しなければならない環境が継続していると言えます。当面は、米サブプライムローン問題の拡大や長期化、及び国内景気への影響を十分に意識しながらの舵取りをしいられるだけでなく、国内景気の閉塞感も出てきていることから、金利正常化を急ぐことは難しいと思われます。不確実性の高まりは金利の振れ幅拡大につながる可能性が高いことから、その点を注視して運用を行う必要があると思われます。当面は、国内要因のみならず外的要因の影響についても大いに注視をして行く方針です。
(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社　日本債券運用チーム)

信託財産の構成

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
公社債	99.3%	4.41年
短期資産等*	0.7%	12.31年
合計	100.0%	4.46年

* 債券先物を含む

公社債の内訳

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
国債	84.9%	4.68年
地方債	0.0%	0.0年
特殊・財投債	1.8%	3.44年
金融債	0.5%	2.47年
社債等	12.1%	2.71年
コールローンその他*	0.7%	12.31年
合計	100.0%	4.46年

* 債券先物を含む

格付別債券構成比率

格付区分**	構成比率
AAA	2.3%
AA	91.1%
A	6.1%
BBB	0.5%
BB以下	0.0%
合計	100.0%

** S&P格付を優先

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

注意事項

○変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年）

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年　8月　1日	1,000	-319	1,000	-282	-2.18	-0.30
平成12年　9月　1日	1,000	-327	1,000	-291	-3.63	-0.50
平成12年　10月　1日	1,000	-303	1,000	-267	-0.88	-0.12
平成12年　11月　1日	1,000	-282	1,000	-247	1.37	0.19
平成12年　12月　1日	1,000	-258	1,000	-224	3.96	0.55
平成13年　1月　1日	1,000	-237	1,000	-204	6.25	0.87
平成13年　2月　1日	1,000	-249	1,000	-216	4.31	0.61
平成13年　3月　1日	1,000	-210	1,000	-178	8.77	1.24
平成13年　4月　1日	1,000	-187	1,000	-156	11.21	1.59
平成13年　5月　1日	1,000	-213	1,000	-180	7.67	1.11
平成13年　6月　1日	1,000	-204	1,000	-172	8.33	1.22
平成13年　7月　1日	1,000	-189	1,000	-157	9.83	1.45
平成13年　8月　1日	1,000	-159	1,000	-129	13.07	1.93
平成13年　9月　1日	1,000	-116	1,000	-87	17.92	2.64
平成13年　10月　1日	1,000	-63	1,000	-36	23.95	3.50
平成13年　11月　1日	1,000	-80	1,000	-52	21.41	3.20
平成13年　12月　1日	1,000	-86	1,000	-58	20.29	3.08
平成14年　1月　1日	1,000	-85	1,000	-57	19.91	3.07
平成14年　2月　1日	1,000	-55	1,000	-27	23.19	3.59
平成14年　3月　1日	1,000	-62	1,000	-35	21.82	3.44
平成14年　4月　1日	1,000	-77	1,000	-49	19.60	3.16
平成14年　5月　1日	1,000	-69	1,000	-41	20.12	3.29
平成14年　6月　1日	1,000	-71	1,000	-43	19.43	3.23
平成14年　7月　1日	1,000	-29	1,000	-2	24.05	4.00
平成14年　8月　1日	1,000	9	1,000	36	28.36	4.72
平成14年　9月　1日	1,000	12	1,000	40	28.36	4.79
平成14年　10月　1日	1,000	46	1,000	73	32.01	5.43
平成14年　11月　1日	1,000	49	1,000	77	31.99	5.52
平成14年　12月　1日	1,000	35	1,000	62	29.70	5.25
平成15年　1月　1日	1,000	66	1,000	94	33.10	5.89
平成15年　2月　1日	1,000	96	1,000	125	36.28	6.50
平成15年　3月　1日	1,000	104	1,000	133	36.82	6.70

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　　TEL　03-6737-7777（大代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

発行 ： 2008年1月

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績(%)	年複利(%)
	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	110	1,000	139	36.98	6.85
平成15年 5月 1日	1,000	92	1,000	121	34.19	6.50
平成15年 6月 1日	1,000	77	1,000	106	31.88	6.22
平成15年 7月 1日	1,000	59	1,000	86	29.11	5.84
平成15年 8月 1日	1,000	49	1,000	77	27.47	5.65
平成15年 9月 1日	1,000	41	1,000	69	26.06	5.49
平成15年 10月 1日	1,000	40	1,000	68	25.50	5.49
平成15年 11月 1日	1,000	30	1,000	57	23.78	5.25
平成15年 12月 1日	1,000	35	1,000	63	23.98	5.41
平成16年 1月 1日	1,000	25	1,000	52	22.30	5.16
平成16年 2月 1日	1,000	14	1,000	41	20.56	4.89
平成16年 3月 1日	1,000	3	1,000	30	18.86	4.61
平成16年 4月 1日	1,000	-8	1,000	17	16.95	4.26
平成16年 5月 1日	1,000	-5	1,000	20	16.91	4.35
平成16年 6月 1日	1,000	7	1,000	33	17.92	4.71
平成16年 7月 1日	1,000	-2	1,000	23	16.33	4.42
平成16年 8月 1日	1,000	17	1,000	43	18.23	5.02
平成16年 9月 1日	1,000	18	1,000	45	17.99	5.09
平成16年 10月 1日	1,000	20	1,000	47	17.80	5.17
平成16年 11月 1日	1,000	26	1,000	53	18.06	5.38
平成16年 12月 1日	1,000	17	1,000	43	16.51	5.08
平成17年 1月 1日	1,000	3	1,000	30	14.56	4.64
平成17年 2月 1日	1,000	6	1,000	32	14.44	4.73
平成17年 3月 1日	1,000	-5	1,000	20	12.64	4.29
平成17年 4月 1日	1,000	-3	1,000	22	12.44	4.36
平成17年 5月 1日	1,000	15	1,000	41	14.15	5.09
平成17年 6月 1日	1,000	6	1,000	32	12.76	4.76
平成17年 7月 1日	1,000	-3	1,000	22	11.23	4.35
平成17年 8月 1日	1,000	-13	1,000	12	9.76	3.93
平成17年 9月 1日	1,000	-16	1,000	8	8.95	3.74
平成17年 10月 1日	1,000	-46	1,000	-21	5.32	2.33
平成17年 11月 1日	1,000	-37	1,000	-12	5.90	2.68
平成17年 12月 1日	1,000	-59	1,000	-58	3.16	1.51
平成18年 1月 1日	1,000	-72	1,000	-72	1.30	0.65
平成18年 2月 1日	1,000	-82	1,000	-82	-0.11	-0.06

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績(%)	年複利(%)
	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)		
平成18年 3月 1日	1,000	-74	1,000	-73	0.42	0.23
平成18年 4月 1日	1,000	-79	1,000	-78	-0.49	-0.28
平成18年 5月 1日	1,000	-73	1,000	-73	-0.28	-0.17
平成18年 6月 1日	1,000	-38	1,000	-38	3.14	1.97
平成18年 7月 1日	1,000	-37	1,000	-37	2.79	1.85
平成18年 8月 1日	1,000	-34	1,000	-34	2.77	1.95
平成18年 9月 1日	1,000	-49	1,000	-73	0.79	0.59
平成18年 10月 1日	1,000	-46	1,000	-68	0.72	0.58
平成18年 11月 1日	1,000	-47	1,000	-66	0.25	0.21
平成18年 12月 1日	1,000	-45	1,000	-61	0.11	0.10
平成19年 1月 1日	1,000	-60	1,000	-74	-1.84	-1.84

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成19年12月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター